

2761690177



ハントンの通信

いつまで続くか不定期発行
発行No.012

16-90177

ドライブと訪問看護

兵庫県から「ハントンを勉強したいのですが」と見学の依頼がありました。その看護師さんは精神科訪問看護の壁にぶつかっているようでした。私たちが勉強をしなからな日々ですが、現時点で私たちが大切にしていることを感じてもらえたらと思っって見学をOKすることにしました。

精神科の訪問看護は、ドライブのようなもの。その車でハンドルを握っているのは、利用者さんだったり、ご家族だったりします。そこに訪問看護師がやってきて、教習所の教官のように指導されると楽しくなくなります。「左右の確認をしましょう」「交通ルールを守りましょう」「メンテナンスは大切です」等々・・・そういう場面が必要な事もありますけれども。

あるいは、交通案内をする場合もあります。「この道はよく渋滞しますから違う道で行きましょう」「地図をみましたか?」「行先は?」などなど。やはりその役割が求められる時もあります。

でも運転者は緊張しないでしょか? 「道に迷ったら注意される」「遠回りになってしまったらどうしよう」と考えてしまうかもしれません。運転に自信がない人が、ハンドルを握っている時に、心が救われるのは、ただ助手席に座って、ドライブを楽しんでくれる人の存在だと思うのです。

道に迷って焦っている時に「さっきの道を左だったのに」と言われたらちよつとイヤですが、助手席の人が迷っていることにも気づかず「さっきの噴水がキレイだったね」と窓からの景色を楽しんでくれたらホツとします。ゆっくり失敗できるし、自分のペースで立て直すこともできます。

居眠りしてくれたり、一緒に迷ってくれたり、目的地にたどり着けなくても、「まあいいやん」と気にしなかったり。パンパーをこすってしまったら、バッテリーがあがってしまったら、ガス欠になってしまっても、それもドライブのうちと考えて、事故故につながる事がないよう助手席で見守りつつ「一緒に楽しむ」が秘訣だと思います。

けれどももついつい「どうしたら失敗しなくなるか」を考えてしまいがちです。私ももついつい考えてしまう・・・。つい教官やナビゲーターをしてしまいがちですし、世の中も、ご家族も、ご本人でさえそう考えてしまう。

大切なのは、失敗しないことではなくて、人生を楽しむことだと思ふのです。「その人とのドライブを楽しむ」という気持ちを忘れないようにしたいと思ふのです。見学の方にそのあたりが伝わって何かのヒントになればいいなと思ふます。



お知らせ

ふくしま
ハントンの管理者が「福島」に
バトンタッチ! します。
(鈴木もハントンを続けますヨ)

ハントンの8年目



ハントンの11年目



フォトコーナー

ハントンのゴーヤは今年も豊作です

